

令和元年度 学力向上に係る効果的な取組事例

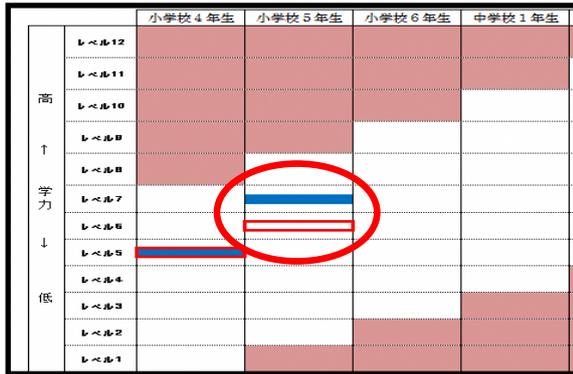
「埼玉県学力・学習状況調査から見る、学力の伸びと効果的な取組」

八潮市立大曽根小学校

学力の変化・伸びの状況

今年度の埼玉県学力・学習状況調査の結果は以下の通りである。

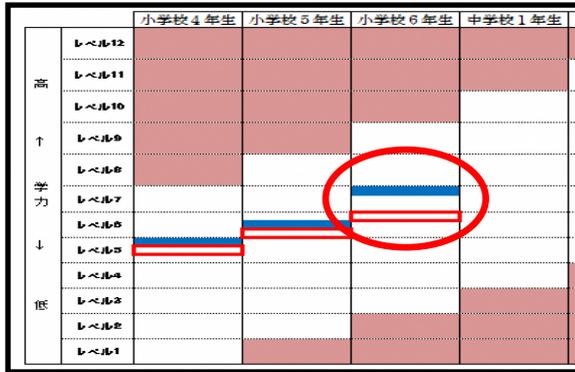
【4年生→5年生】（算数）



| 対象 | | 学力を伸ばした児童の割合 (%) | |
|----|----|------------------|-------|
| | | H30 → R1 | |
| | | 国語 | 算数 |
| 5年 | 県 | 51.2 | 79.3 |
| | 本校 | 69.0 | 91.7 |
| | 比較 | +17.8 | +12.4 |

- 小4から小5にかけて、学力レベルが6上昇し、県平均を上回った。
- 学力を伸ばした児童の割合は、県平均と比べ、10ポイント以上上回った。

【5年生→6年生】（算数）



| 対象 | | 学力を伸ばした児童の割合 (%) | |
|----|----|------------------|-------|
| | | H30 → R1 | |
| | | 国語 | 算数 |
| 6年 | 県 | 73.5 | 70.8 |
| | 本校 | 89.7 | 82.8 |
| | 比較 | +16.2 | +12.0 |

- 小5から小6にかけて学力レベルが4上昇し、県平均を上回った。
- 学力を伸ばした児童の割合は、県平均と比べ、10ポイント以上上回った。

本校の取組について

本校では、算数科を中心に学校課題研修に取り組んでおり、主体的に学び、分かる喜びを実感できる授業の工夫・改善を行っている。

特に、児童の学び方や解き方の理解・習得と、教師の日々の授業改善の具体的な取組が学力向上につながると考え、実践を重ねてきた。



授業改善の具体策

①「大曽根スタンダード」による授業実践

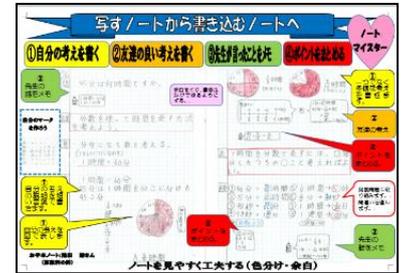
教師が話す時間を極力減らし、児童が主体となる基本的な学習過程を示した「大曽根スタンダード」を作成した。学習過程を「つかむ・見通す・考える・話し合う・まとめる」段階とした授業を、全学級・全学年で行った。



②「書き込むノート」の実践

全教科を通して児童自らがノートにコメントを入れたり、要点をまとめたりする「書き込むノート」作りを行った。

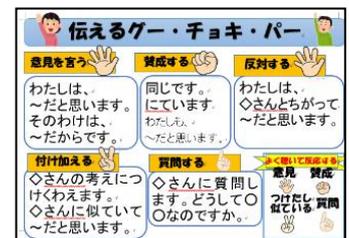
また、返却されたテストやプリント学習などでも自主的に書き込むよう指導した。



③「伝えるグーチョコキパー」の実践

ハンドサインによる挙手で、自分の考えを表現する「伝えるグーチョコキパー」を創設し、話し合い活動や練り上げの場面で活用した。

また、「話す」だけではなく、「聞く」「反応する」ことも重要視しながら指導を行った。



④「トリオ学習」の実践

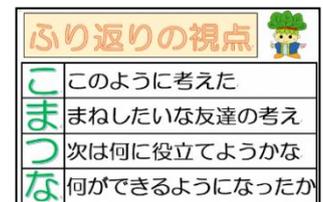
児童同士での学び合いを活性化させるため、学習形態を三人一組とした。課題解決や練り上げの際、活発な意見交換や教え合いが行えるようにした。



トリオ学習の様子

⑤「こまつな」による学習の振り返り

八潮市の特産農作物の「こ・ま・つ・な」を頭文字にした学習の振り返りを児童が主体的に行えるようにした。



児童の学び方・解き方の理解・習得の具体策

①「学習の十カ条」の徹底

小学校2校、中学校1校からなる中学校区域ブロックで取り組んでいる、「学習の十カ条」を意識して授業を行い、学び方を定着させた。毎月振り返りを行い、花丸や達成した数値を掲示し児童にフィードバックした。



②「レベルアップタイム」の充実

始業前の15分間・週3回を「レベルアップタイム」とし、児童の基礎基本となる学力及び思考の道具の定着のため、全学級プリント学習（国・算）を行った。教師は、残り5分間で拡大掲示した問題用紙から解き方の指導を行い、学力等の定着を図った。

③ コバトン問題集・学力向上ワークシートの実施

県が作成したコバトン問題集と学力向上ワークシートを活用し、学習の習熟を図った。